

## 令和5年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

音戸中学校区 校番 27 学校名 音戸小学校

a 学校教育目標	<p>〈小中一貫教育目標〉ふるさとを愛し、自律できる児童生徒の育成</p> <p><b>夢をもち 自ら動き たくましく 生活する 児童の育成</b></p>	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 知・徳・体の基礎的な力を身に付け、学校や故郷に誇りと愛情を持ち、感謝・貢献する児童を育む。
			〈ビジョン〉(将来の学校像) 挨拶と笑顔があふれ、安全・安心な学校 児童が自信を持ち、目標に向けて挑戦する学校 地域・家庭とつながり、信頼される学校を目指す。

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	昨年度は、中学校区で設定した資質・能力の育成をめざし、学力向上については、ICTの効果的な活用を図りながら、児童が考えるための授業づくり(授業改善)や選択制家庭学習を導入するなど個に応じた学習環境づくりを進めることで、学びに対する児童の主体性の向上が見られた。また、心の育成では、コロナ禍で十分に進められなかつた児童会活動や縦割り班活動、地域学習を感染防止対策を取りながら進めることで、児童の自己肯定感や地域への感謝や愛着心の向上が見られた。心身の育成では、基本的生活習慣の確立や走力を主にした体力向上の取組を進めるとともに、防災教育についても家庭を巻き込む取組を進めたことで防災意識が向上した。以上を踏まえ、今年度は、ICTを効果的に活用し、主体的な学びを実現するための授業改善の推進や実践力を高める防災教育の充実に努めながら、児童一人一人が安心して自己の成長を図るために支援の在り方を実践研究していく。
------------------------------	---

育成すべき資質・能力	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「協働的に関わる力」
------------	--------------------------------

重点	d 中期 (3年間) 経営目標	評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・3 年目)			自己評価					
		e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値		10月		2月	
					i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
★★★  確かな学力  (知) 「前より賢くなつた！友達と学び合うことが楽しい」といえる児童の育成	①児童が主体的に課題解決に取り組む授業づくりを進める  ②表現力を育成する  ③個に応じた学習指導を工夫し、基礎学力の定着を図る	○考える授業づくりの推進  ○課題発見・解決学習の授業研究の実施  ○スピーチの取組	○学期末評価テストの平均点(国・算・社・理)  ○県学習意識等調査の質問紙(課題発見・解決学習に関する)  ○スピーチに関する児童アンケート	80 85 80	83 89 75	103 104 93	A A B			
★★  豊かな心  (徳) 「友達大好き・自分大好き・音戸大好き」な児童の育成	④自他のよさを認め合い、自尊感情、自己有用感を向上させる。  ⑤地域の人・もの・ことと関わり、活用し、感謝・貢献する意識を醸成する。	○「あいさつ」の徹底(委員会・学級での取組や研修の実施)  ○学級活動や児童会活動、縦割り班活動の充実 ○「親切さんありがとうBOX」の活用  ○生活科の学習や総合的な学習の時間の中で、地域への理解を深める。	○挨拶意識調査(児童・保護者・教職員)  ○活動後の意識調査(肯定的評価の割合) ○「親切さん」を自主的に推薦した児童の割合 ○学習後の振り返り(深まりの感じられる内容を書いた児童の割合)	80 80 70 80	教100 児82 87 88 教78	91	A			
★  健やかな心身  (体) 「運動大好き・給食大好き・早寝早起き音戸っ子」の育成	⑥基本的な生活習慣の確立を図る。  ⑦児童の運動意欲を高め、体力づくりを推進する。  ⑧児童の防災意識を高める	○「げんきっずカード」による取組  ○走力を重点的に伸ばす取組  ○「自分の命は自分で守る」防災授業(実践に結びつく授業を学期に1回)	○平日のメディアのきまり1時間以内を守ることができ児童の割合  ○50m走の記録を更新させる(1回目より2回目の記録が上回る児童の割合) ○学期に1回以上実践に結びつく授業を行う	70 70 85	78.5 100 100	112	A			
業務改善  教職員が自らの意欲と能力を發揮し、健康でやりがいを持って働くことができる教育環境の整備	⑨児童と向き合う時間の確保  ⑩長時間労働の縮減	○行事の精選と簡略化  ○会議時間の短縮  ○放課後時間の確保(繁忙期) ○週1回(木)の定時退校の推進 研修日を(木)とする。	○児童と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合  ○時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合(前年度の割合80%を上回る)	80 80	67 71	84 89	B B			

【k:評価】

A: 100≤(目標達成) B: 80≤(ほぼ達成) <100  
C: 60≤(もう少し)<80 D: (できていない)<60